

令和3年度 公私幼保合同研究会まとめ

保育力フォローアップ研究会



大阪市保育・幼児教育センター

ねらい

教育・保育の振り返り（自己評価）の意義や方法を捉え、教職員への助言のポイントを学ぶなど、リーダーとしての力を培っていく

テーマ

「振り返りを通して、リーダーとして学び合う雰囲気を支えよう」

「教育・保育の振り返り（自己評価）」の意義や方法を理解し、教職員への助言のポイントを学ぶ

講師

東大阪大学 東大阪短期大学
学長・教授 吉岡 眞知子

参加園所

大阪市立住吉保育所	大阪市立北津守保育所
大阪市立三国保育所	マザーシップ船場保育園
大阪市立木川第1保育所	大阪市立高松保育所
大阪市立高見町保育所	大阪市立南津守保育所
大阪市立天王寺保育所	今福南保育園
大阪市立浪速第5保育所	西六保育園・おひさまルーム
大阪市立鷹合保育所	

研究の方法

- 指導助言をし、それを記録として持ち寄り、リーダーとしてどのように指導していけば良いのかを、意見交流、討議、検証する。
- 主任としての悩みを共有し、指導の手立てを考える。

実施一覧

場所：大阪市保育・幼児教育センターもしくはオンラインライブ配信

回数	日時	内容
①	8月23日（月） ※オンライン開催 15:00～17:00	講義 「保育の振り返りの必要性－記録をとることの大切さ－」
②	10月26日（火） 15:00～17:00	実践記録を持ち寄り、意見交流・討議
③	11月18日（木） 15:00～17:00	リーダーとして「助言へのポイントを学ぶ」演習
④	12月21日（火） 15:00～17:00	保育カステップアップ研究会の実践記録をもとに検討する
⑤	1月24日（月） ※オンライン開催 14:00～17:00	ステップアップ研究会の実践記録をもとに意見交流・討議 （保育カステップアップ研究会と合同開催）
⑥	2月8日（火） ※オンライン開催 15:00～17:00	主任としての悩み等、意見交流・討議
⑦	3月10日（木） 14:00～17:00	研究のまとめ・振り返り （保育カステップアップ研究会と合同開催）

第1回（令和3年8月23日）

※オンライン開催

◆講義「保育の振り返りの必要性－記録をとることの大切さ－」

- ・どのように若い先生たちに指導していけばよいのか？
- ・記録をとる意味をしっかりとち、保育士としての振り返りが大切。
- ・保育士という仕事の魅力は？魅力を振り返ることも、保育の振り返りになる。
- ・保育計画をたてて実践することは重要な仕事。保育者として今の子どもの姿を思い浮かべながら成長していることが実感できる自分がいるか？
- ・援助職と言われる仕事をしている人たちは、援助される人のことをどれだけ理解しているか？
- ・記録を書くことが、一番の子どもの理解につながる。
- ・客観的に見て、子どもの気持ちを理解しようとしているか？保育士の想像になっていないか？根拠を記載する。
- ・「ねらい」を達成するために保育をしているか？活動しているか？を主任の立場で見て欲しい。一緒に行い、担任の援助者になる。主任の姿が園の姿になる。

指導講師より ～各園所の実態を聞いて～

- ・子どもの姿を語り合う。語り方の質が高まってくる。理屈ではなく、語り合うことが大切。
- ・各園所の目標に、みんなで向かっていく。全体で話すことが保育観の共有になる。
- ・主任は、子どもの姿を発見する喜びが魅力ではないか？発見した子どもの姿を担任に伝える。

◆次回までの課題：「日誌、保育記録を書く」

第2回（令和3年10月26日）



◆課題：「日誌、保育記録を書く」

「記録を書いてみてどうだったか、何にポイントをおいたのか」主な意見

- ・集中して遊んでいた日、集中して遊べなかった日の両方の日を書いた。その記録を基に所内で検討を行い、保育を振り返る機会となった。
- ・日々の保育の中で、何にポイントを置いて記録をとっていくのか悩んでいる。
- ・他の人の記録を見ることも参考になった。PDCAサイクルの書き方は興味深い。
- ・事実を書くということを意識した。想像にならないように、根拠を書くことを意識した。
- ・担任が休みの時、保育に入った時の記録を書いた。担任と違う気付きがあったことから担任と話をする機会となり、子どもを見る視点が広がった。

指導講師より

- ・主任自身も記録をすること等も含め、「リーダーとして力をつけていく」必要がある。
- ・先にたてた「ねらい」にこだわってしまい、保育を誘導していないか。子どもが違うことをする時は原因があるはず。急かしているのではないか。
- ・担任は保育者としてその子の気持ちに近付いているか？一人一人を大事にしていくこと。

◆次回までの課題：「指導助言をし、それを実践記録として書く」

第3回（令和3年11月18日）

- ◆課題：「指導助言をし、それを実践記録として書く」
- ◆演習：二人組になり、実践記録を基にカンファレンスを行う。
限られた時間で要点をまとめ、ポイントを絞って伝えることを意識する。



- ・「聞いてもらえる」という安心感を！
- ・「なんでも話せる」ように肯定的に捉える。
- ・まずは相手の思いに共感することから。
- ・自身の過去の経験は失敗談から。 等

このようなことを意識しながら演習を行った。

リーダーとしての自覚とともに主任自身の学ぶ意欲、技術、知識も重要！

第3回（令和3年11月18日）

指導講師より

～指導助言をする時に大切なこと～

- 「相手の話を聴くように心がけていた」がキーワードになっていた。そのような姿勢をもっていることが、若い先生は救われる。
- 共感的な言葉で伝えようとしている。しっかり見て相手の良さを伝える。
- 言いたいことはたくさんあるが、1つだけでも伝えられれば良い。
- 子どもの育ちを考えて伝える。保育士の心を掴んでどう伝えるか？を常に考えておく。
- 園長に相談することも、その意見から見えてくるものがある。
- 伝えるにも段階がある。焦らず、少しずつ伸ばしていく。「やってください」は伝わらないので、自分がやることで見せて示す。
- 担任の先生が、どんなねらいをもっているか？ さっと流れる保育が良いのではない。楽しくできていたか？が大切。
例えば、楽器作りではねらいが「楽器を作ること」か？「音を楽しむこと」か？
折り紙を折る活動でのねらいは「集中すること」か？「表現する楽しさ」か？「イメージをもって楽しむ」なのか？楽しむということを大事にするのか？
- 活動に参加しないのは、どうしてだろう？と一緒に考える。「先生が育つことが、子どものためになる」先生の質の向上が、子どもの育ちをのばす。
- 人材育成は、保育の質を上げること、経験と共に知識を増やすことである。

◆次回までの課題：「カンファレンスを通して学んだことをもとに、再度指導助言をし、それを実践記録として書く」

第4回（令和3年12月21日）



◆前回の気づきをもとに、指導助言を行い、実践記録を書いてみてどうだったか

主任が少人数の方を見ていたが、担任が少人数の方を見ることもしていきたい。

言葉だけでは伝わりにくいので、実際一緒に保育をしてみても振り返った。

公開保育をした。「ねらい」に沿って話げできた。日々できていなかったことに気付いた。

複数担任で保育士間の連携が大切。分担が上手くいっていないところは遊びも上手くいかず、子どもたちのトラブルにもつながることがわかった。

実践記録をとることで見えてきた。当たり前と思っていたこと、当然と思っていたことに対し、具体的に知らせる必要性を感じた。

じっくり関わる日を設けた。「ねらいは何？」と普段なかなか聞けないが、じっくり関わることにより振り返りができた。

指導講師より

環境の構築化ができていないことを、記録をとることで、気付くことができた。

年齢が様々な職員間のなかで、「ねらい」「振り返り」を話せるようになってきた。

- ・「ねらいは何？」と聞いていることが大事。ねらいに近づいたような学びがあるか？**ねらい**に対してどうだったか？と振り返りが大事ということを実践してくれていて嬉しい。
- ・**公開保育を各園所で実施**することも大事。指摘ではなく客観的に見ることで自分自身の今までの保育を振り返ることができる。「自分たちで見合いしましょう」というスタンス。
- ・**ベテラン先生と若い先生の連携の取り方が大事**。「連携はどう？」と話をすること。園内の連携が上手くいっているところは、スムーズに保育が進む。

第5回（令和4年1月24日）

※保育カステップアップ研究会と合同・オンライン開催

◆「今、保育者（もしくは主任）として悩んでいること」グループ討議

主任（保育カフォローアップ研究会）	担任（保育カステップアップ研究会）
保育者一人ひとりに応じた指導助言が難しい。	子ども主体の保育とは？どのように進めればいいのか。
「主任から」のアドバイスは構えてしまう？ 言われた、と感じないよう納得するように伝えたい。	一斉で行うものと個別で行うもの、どのように支援していけばよいか。
経験のある保育士との考え方が違う時の調整が難しい。	子どものための保育になっているのか。保護者を喜ばすための保育になっていないか悩む。
それぞれの意見のすり合わせ、調整が難しい。	遊びこめる環境設定とは？何から始めればいいのか…
会議など、誰もが自由に意見を言い合える関係づくり。 やりたいことなど積極的な意見を引き出したい。	指導計画の書き方について。ねらいの立て方など。 個人の育ちを踏まえた上でポイントをどこに置くのか。
保育者の仕事を楽しいと感じているか？どんな気持ちで保育をしているのだろう…	考察の書き方。ポイントをどのように絞ればいいのか。
コロナ禍の中、保育者の努力を保護者へも伝えたい。 保育者も安心して気持ちよく保育をしてほしい。	担任間の保育観のすり合わせ。イメージの共有が難しい。 相手への伝え方も難しい。
業務が多岐にわたり時間の余裕がない。「時間」の見つけ方について	保護者対応、一人ひとりにあった対応を心掛けてはいるが、その対応があっているのか悩む。

第5回（令和4年1月24日）

※保育カステップアップ研究会と合同・オンライン開催

◆「今、保育者（もしくは主任）として悩んでいること



指導講師より

～討議の内容から～

- ①園所全体で話し合えているのか・・・「園所全体で共有」と「園所としての配慮」が必要。
- ②未満児の高月齢・低月齢で分けることについて・・・次の年齢と一緒にするなら園所としてどう考え、カリキュラムを立てるのか（低月齢児の負担にならないようなカリキュラムを立てていく）
- ③保育は誰のため？
保育＝子ども ☆子どもを大事に思う気持ちは保育士も保護者も一緒である
子どもを大事にする・・・子どもがどう育っていくかを考え、それを保護者に伝える。
保護者と一緒に考えることもできる
- ④中堅保育士の悩み・・・1年2年3年と経験したことを伝える。歩んできた経験を伝える。ありのまま伝え、わからない時は、一緒に主任に聞く。
- ⑤支援の必要な子どもには優しく丁寧に大事に関わる→他児が見て、やさしく接することを知る。
★支援計画を熟していくのではなく、生活の中で長い目で見る(広い意味での支援計画と捉える)
- ⑥「こうしなければならない」と考えると保育士主体になる。「こう変化したね」「こう成長したね」と見る。
- ⑦ねらい達成は「できる」「できない」ではなく、個々の子どもが楽しむ・喜ぶ・夢中になったかを見る。
夢中になっているのは主体的に遊んでいるから・・・心情や意欲や態度の視点から記録する

合同で話し合うことで話が深まり主任はうまくアドバイスし、保育の見方、質が向上したと思う。自信をもって進んで欲しい！！



第6回（令和4年2月8日）

※オンライン開催



◆「主任として悩んでいること」グループ討議 ～主な意見～

- プラス面は伝えやすいが、マイナス面を伝えるのが苦手。工夫していることを話し合った。
- 日頃から、近況報告やたわいのないおしゃべりを気にかけている。人と人をつなぐことは難しい。
- 若手育成には、スモールステップで丁寧に細かく指導していくことが必要。会議の議題にあげて、みんなで考えるようにしている。
- クラスでの保育を公開保育にして、みんなで保育を見て意見をもらう。公開保育を実施して、学びになることが多い。

指導講師より

- 新任の先生、ベテランの先生、それぞれに伝え方が難しい。素直に聞けなかったり、プライドがあったりする。言いにくいことは「子どもの育ちにとって、どうなんだう？」と考える。
- 主任自身が、子どもの育ちをどのように考えているか問いかける。



最終回（令和4年3月10日）

※保育カステップアップ研究会と合同開催

◆グループ討議

ステップアップ研究会メンバーとフォローアップメンバーが各グループに分かれ、各自のまとめた内容について、意見交流・討議をする。

◆各自報告内容をまとめる「伝わる文章」作成

まとめた内容を報告するために、各自で伝えたいことを簡潔に文章化する。

◆一人ずつ報告する「学びとなったこと」

「伝わる話し方」を意識し、ポイントを絞って報告する。



指導講師より

- 実践した手応えがあって嬉しい。主任の経験が語りになる。子ども理解にもなるが、自分磨きにもなる。自分磨きをしたことが宝になる。
- 子どもの姿を語り合うことが大事。自分と違うところが見えてくる。コミュニケーションが大切。
- まとめをみていると、すごく勉強されたことがよくわかった。工夫して作成している。研究会で同じ立場で語り合うことはとても良かった。共通の研究をした仲間としての輪をしっかりとつこと。「一緒にやった仲間意識」を今後もつなげてほしい。